

サンダンス映画祭——世界の独立系映画製作者の活動を応援

サンダンス映画祭と主催団体サンダンス・インスティテュートは、世界の独立系（インディーズ）映画製作者たちを応援し、存在が知られる機会を提供する。



映画ファンは毎冬、ユタ州パークシティーで開かれるサンダンス映画祭に押し寄せる

©Mark Maziarz

米国で高く評価されている 10 日間にわたるサンダンス映画祭は毎年 1 月、ユタ州パークシティーの雪深い山間で開催される。サンダンスは、当初は駆け出しの独立系映画製作者による作品を紹介することを目的としたが、やがてパネル・ディスカッション、若者向けプログラム、オンライン上映、ライブ演奏などを含むイベントに成長した。毎年、世界から集まる参加者は 4 万 5000 人以上。1985 年のスタート以来、サンダンスで上映された米国や各国の独立系作品は、何度もアカデミー賞の候補となり、実際に受賞している。評判が高まる一方のこの映画祭には、各国から有名人が上映会にやってくる。上映される作品は質が高いために、多くの関係者が刺激され、ハリウッドの基準よりはるかに少ないギャラで独立系映画に出演したり、メガホンを取ったりする。

米国や各国の作品を対象にしたドキュメンタリーディレクター部門とドラマ部門があり、審査員大賞と観客賞は映画祭最終日に発表される。審査員たちは映画分野で活躍する現役の著名アーティストだ。授賞対象は脚本、演技、監督、撮影で、特別賞もある。映画祭で紹介される作品のすべてがコンペティションの対象というわけではない。配給先を探すために特別なプレミア上映や一般上映用に選ばれる作品もあり、ショートフィルムはカテゴリー別に上映され、サンダンス映画祭のウェブサイトで見ることもできる。 [<http://festival.sundance.org/2007/>]

2007年、サンダンスで上映された米国や世界各国のドラマやドキュメンタリーは64本。しかも米国人監督によるドラマ5本には、主としてスペイン語、ヒンディー語、韓国語、ポルトガル語、マスコギ語（米先住民の言語）を話すキャラクターが登場した。応募作品は長編だけでも3000本を超え、その大半は世界的な問題をテーマにしていた。サンダンスで大きな存在感を示している会社はフランスのゴーモン、セルロイド・ドリームズ、ワイルド・バンチ、ドイツのババリア・フィルム・インターナショナル、デンマークのトラスト・フィルム・セールズ、そしてアムステルダム、ロンドン、シドニー、香港にオフィスを置く国際企業フォルティッシモ・フィルムズだ。伝えられるところによれば、サンダンス映画祭のディレクターであるジェフリー・ギルモアは、2005年に米国以外の長編やドキュメンタリー映画を対象にしたコンペティション部門の賞を創設した際、サンダンスは意識的に国際的な注目を高めるための手段を講じると述べたという。

映画祭の主催団体であるサンダンス・インスティテュートは、俳優・監督としてさまざまな賞を受賞しているロバート・レッドフォードによって1981年にパークシティーに設立された。このインスティテュートが重要であるのは、大胆で最先端をいくスタイルやテーマの作品を紹介するからだけではない。広い国際マーケットを提供して、大小の配給会社や販売会社に独立系映画を買わせ、世界の映画館で上映させるからだ。



俳優・監督でサンダンスの設立者であるロバート・レッドフォード

©AP Images/Kevork Djansezian

サンダンス・インスティテュートは年間を通じて、独立系の映画作家、脚本家、作曲家、劇作家、舞台芸術家の活動を支援する上映会やプログラムを数多く後援している。ドキュメンタリー映画のプログラムは、ノンフィクションの斬新なストーリーづくりの検討を奨励し、ドキュメンタリー作品がますます多くの人の目に触れるよう観客の拡大を図っている。また、人気部門の長編映画プログラムには、毎年、米国や各国から新人の映画製作約25人が参加して

いる。このプログラムは、脚本家や映画監督のための実習と後期製作(ポストプロダクション)を通して独立系プロジェクトを支援する。また、創造面や実際面での継続的なアドバイスや、奨学金制度による経済的支援も行っている。映画音楽部門のプログラムは新人作曲家をインスティテュートに集め、演劇部門プログラムは舞台アーティストの多様な芸術的表現を育成し、独創的でクリエイティブな活動を援助する。インスティテュートはカリフォルニア大学ロサンゼルス校に独立系作品のコレクションを所有している。